

# 高津川の水害特性

---

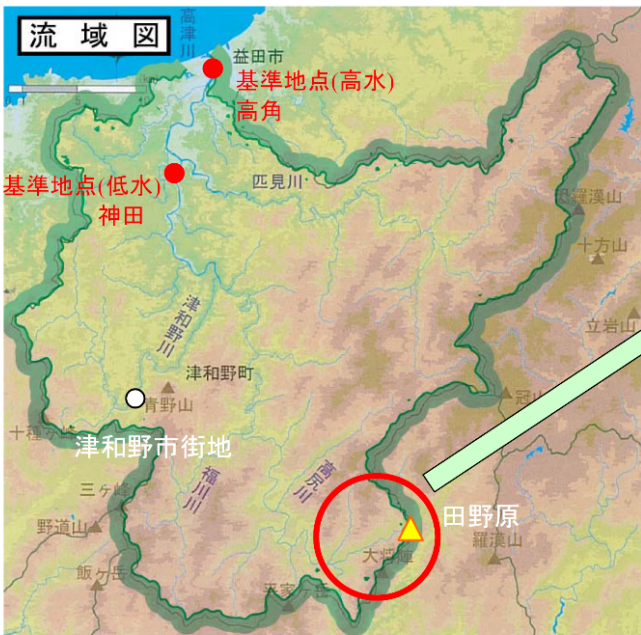
令和元年5月30日(木)

中国地方整備局 浜田河川国道事務所

# 高津川の概要

流域面積	1,090km <sup>2</sup>
幹川流路延長	81km
流域内人口	約3.9万人
想定氾濫区域面積	39km <sup>2</sup>
想定氾濫区域内人口	約2.8万人

- 流域の地形と気候の特徴
- ・本川源流部は河川争奪を受けたため標高400m程度の盆地
  - ・流域は比較的丸く本川上流端から匹見川上流端にかけ1,200~1,300mの山地
  - ・梅雨期の前線性降雨による大出水が多い

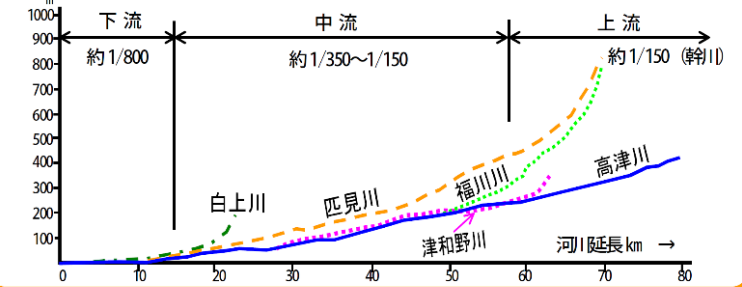


高津川のかつての最上流部は南接する錦川水系の侵食が激しいため、「河川争奪」によって奪われ、源流域が平坦地から始まる全国的にも珍しい河川



高津川によって形成された低平地を錦川が侵食している様子

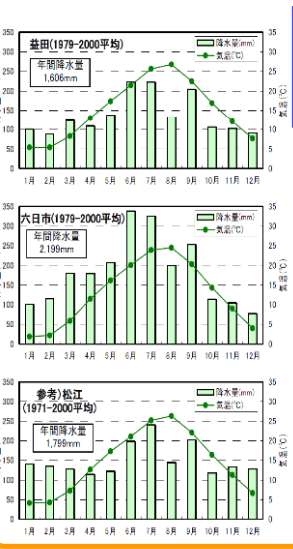
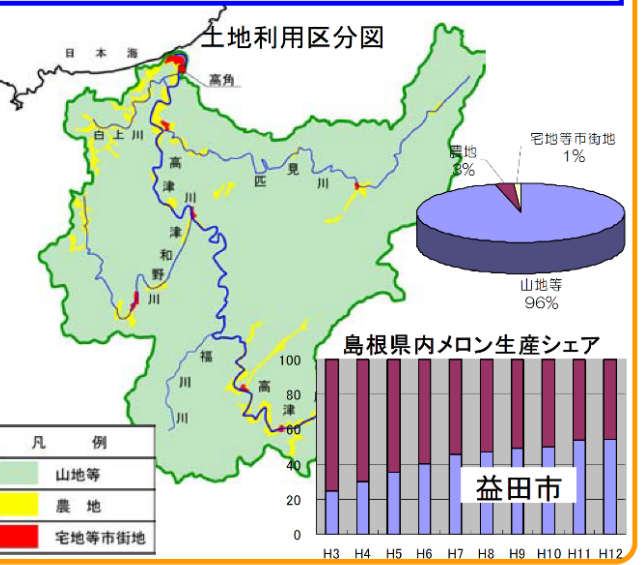
高津川本川の河床勾配 (源流域の勾配は緩やか)



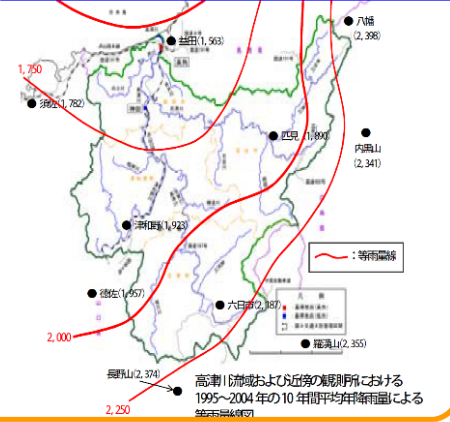
## 藩政時代の河川改修



流域の9割強は森林、低平地は主に農地として利用しており、アムスメロン生産は県内の6割



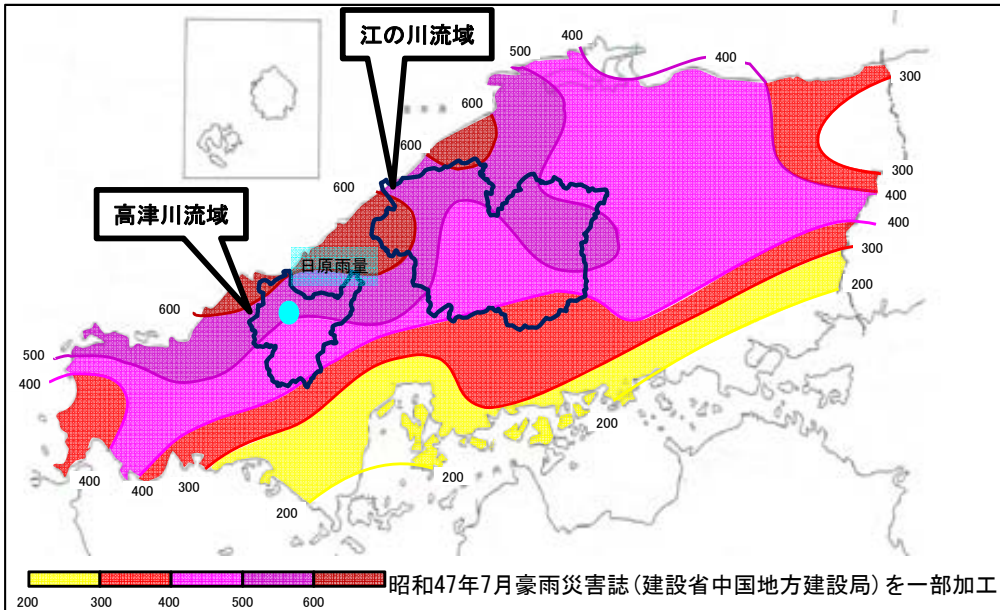
日本海側気候地域に属するが、梅雨期と台風期に降雨が多く、上流域では日本の年平均降雨量1,700mmを上回り2,000mmを越える



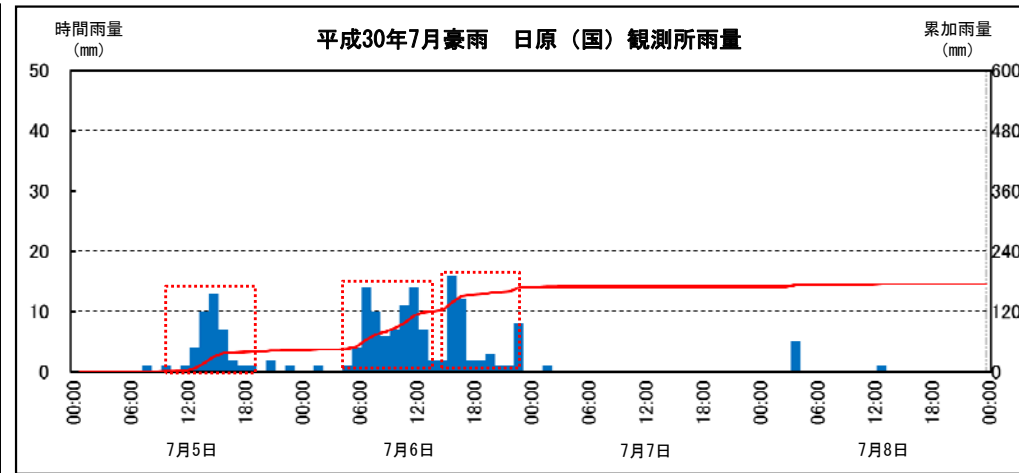
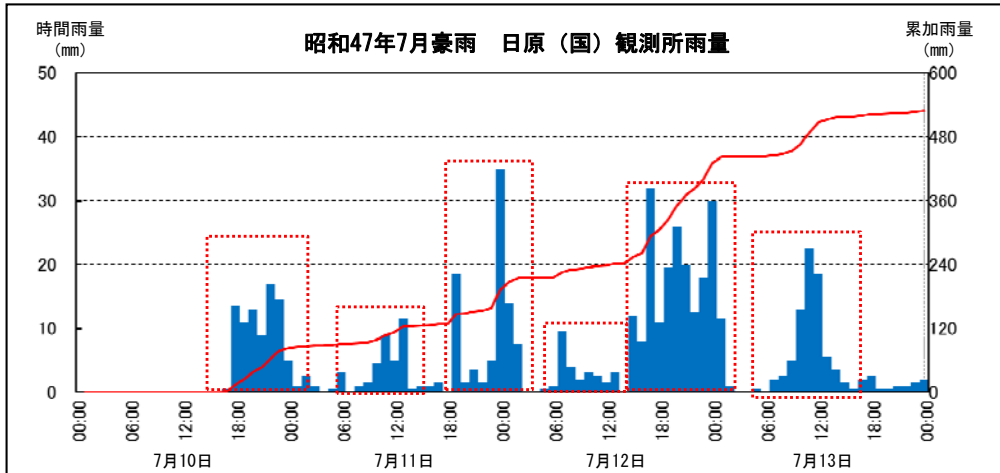
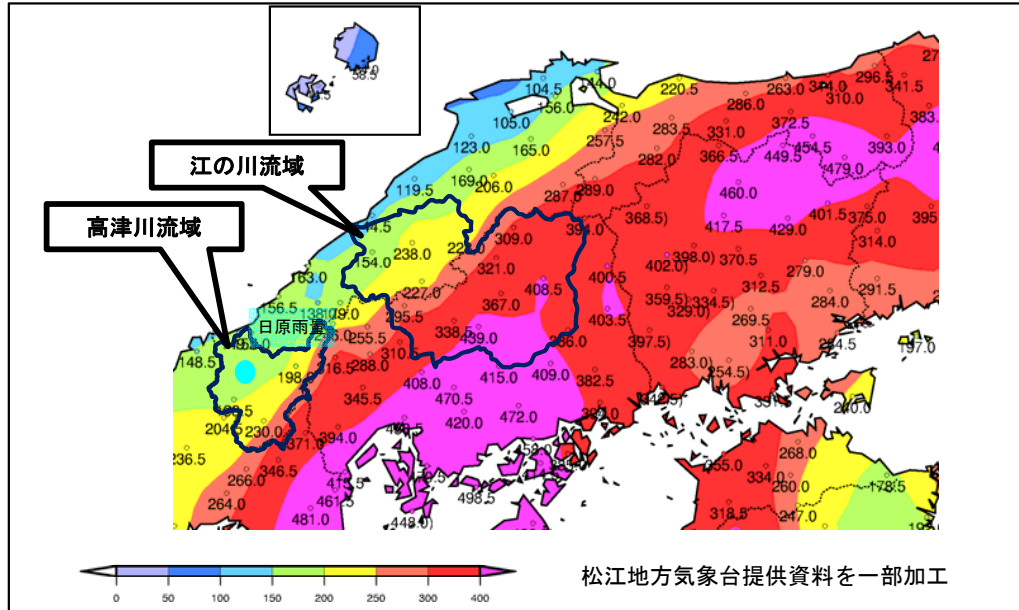
# 高津川における雨量概況【平成30年7月豪雨】

- 梅雨前線が西日本と東日本に停滞し、この前線へ向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となり、西日本から東日本にかけて記録的な大雨が続き、島根県の東部と西部では山沿いを中心に7月5日から7日にかけて大雨となった。
- 主要地点の時間雨量を比較すると、2~3日の間に数回の降雨の山がある。
- 昭和47年7月豪雨は日本海側、平成30年7月豪雨は瀬戸内側で多くの雨が降った。

●【昭和47年7月豪雨】 総雨量分布図（昭和47年7月9日～7月13日）



●アメダス期間降水量（7月5日03時～9日05時）



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

# 国管理河川の概況【平成30年7月豪雨】

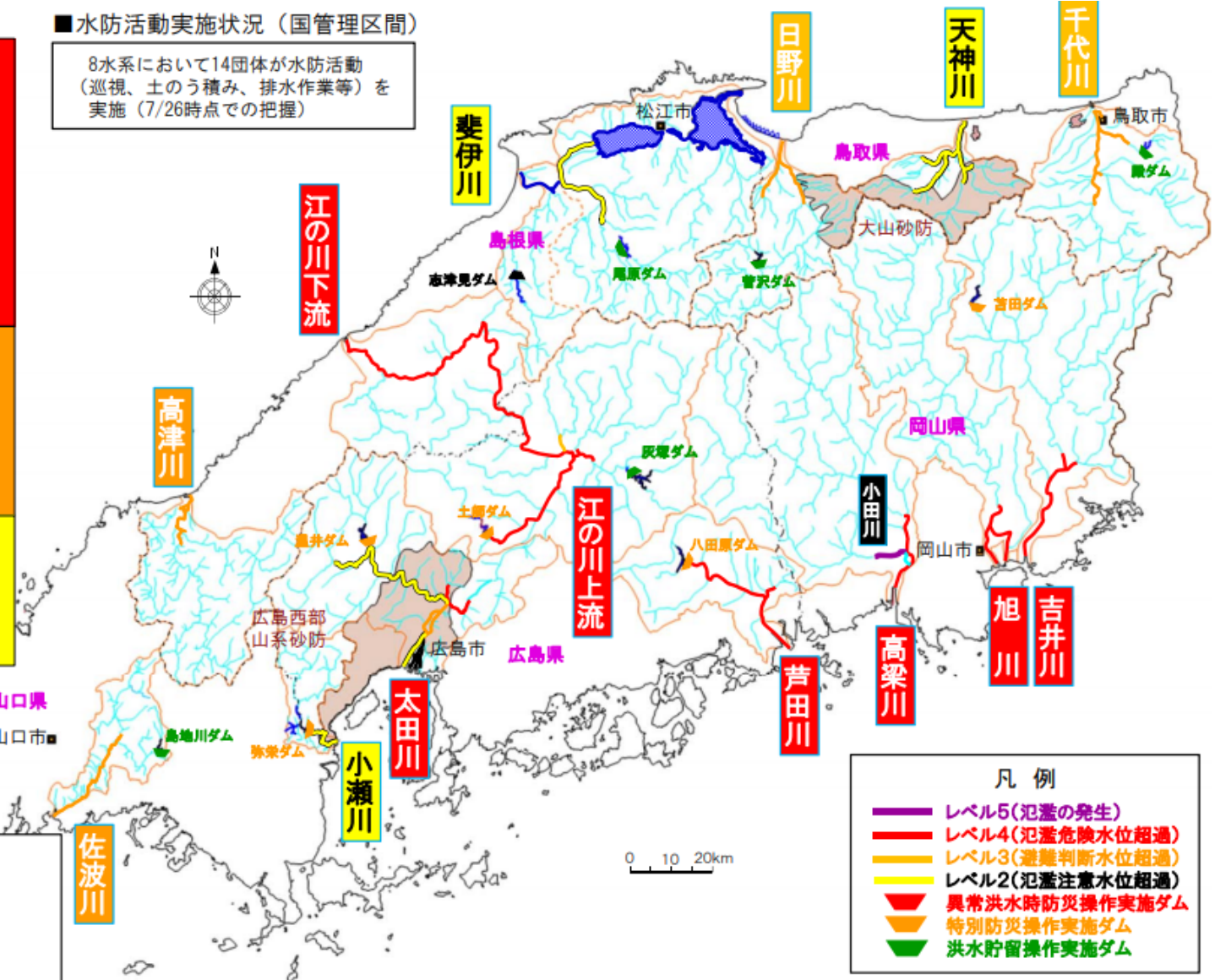
- 今回の出水では**6水系13河川23観測所**で「**氾濫危険水位**」を超過、7水系9河川11観測所で「**避難判断水位**」を超過し、25の市町から避難勧告、避難指示（緊急）が発令されました。
- 高津川水系高津川では**レベル3避難判断水位**を超過しました。

## ■ 河川出水状況（国管理区間）

氾濫危険水位超過 6水系13河川 23観測所	江の川水系 江の川（川本、谷住郷、川平、都賀、犬津、尾関山、薬屋、吉田） 高洗川（南畑敷） 西城川（三次） 吉井川水系 吉井川（津瀬） 金剛川（尺所） 旭川水系 旭川（下牧、三野） 百間川（原尾島橋） 高梁川水系 高梁川（酒津、日羽） 小田川（矢掛） 芦田川水系 芦田川（山手、矢野原） 高屋川（御幸） 太田川水系 榎谷川（新川橋） 三徳川（中深川）
避難判断水位超過 7水系9河川 11観測所	千代川水系 千代川（行徳、用瀬、袋河原） 八束川（片山） 日野川水系 日野川（溝口） 江の川水系 神野瀬川（神野瀬川） 高津川水系 高津川（高角） 吉井川水系 吉井川（御休） 太田川水系 太田川（矢口第一） 古川（古川） 佐波川水系 佐波川（漆尾）
氾濫注意水位超過 7水系7河川 14観測所	天神川水系 天神川（小田、竹田橋） 日野川水系 日野川（車尾） 高津川水系 高津川（神田） 斐伊川水系 斐伊川（木次、新伊堂、瀬分） 旭川水系 旭川（相生橋） 太田川水系 太田川（土居、加計、飯室、紙園大橋） 小瀬川水系 小瀬川（小川津、高国橋）

## ■ 水防活動実施状況（国管理区間）

8水系において14団体が水防活動（巡視、土のう積み、排水作業等）を実施（7/26時点での把握）



※観測所でのレベル超過

## ■ 避難指示（緊急）が発令された主な市町村（国管理区間）

- ・ 岡山県 岡山市、総社市、倉敷市、赤磐市 等
- ・ 広島県 府中市、福山市、安芸高田市、三次市 等

## ■ 主な一般被害（国管理区間）

★高梁川水系小田川沿川の被害状況（岡山県倉敷市真備町）  
 浸水面積<sup>※1</sup>：7/7AM 約1,200ha, 7/9AM 約500ha,  
 7/11 宅地・生活道路については概ね解消  
 浸水戸数<sup>※2</sup>：約4,600棟  
 避難者数<sup>※3</sup>：3,675名（倉敷市全体）

※1：国土交通省中国地方整備局調査による推定  
 ※2：おかも防災ポータルHP（7/11 8時現在）より浸水戸数の最大  
 ※3：倉敷市HP（7/9 8時現在）より避難者数の最大

—	レベル5(氾濫の発生)
—	レベル4(氾濫危険水位超過)
—	レベル3(避難判断水位超過)
—	レベル2(氾濫注意水位超過)
▲	異常洪水時防災操作実施ダム
▲	特別防災操作実施ダム
▲	洪水貯留操作実施ダム

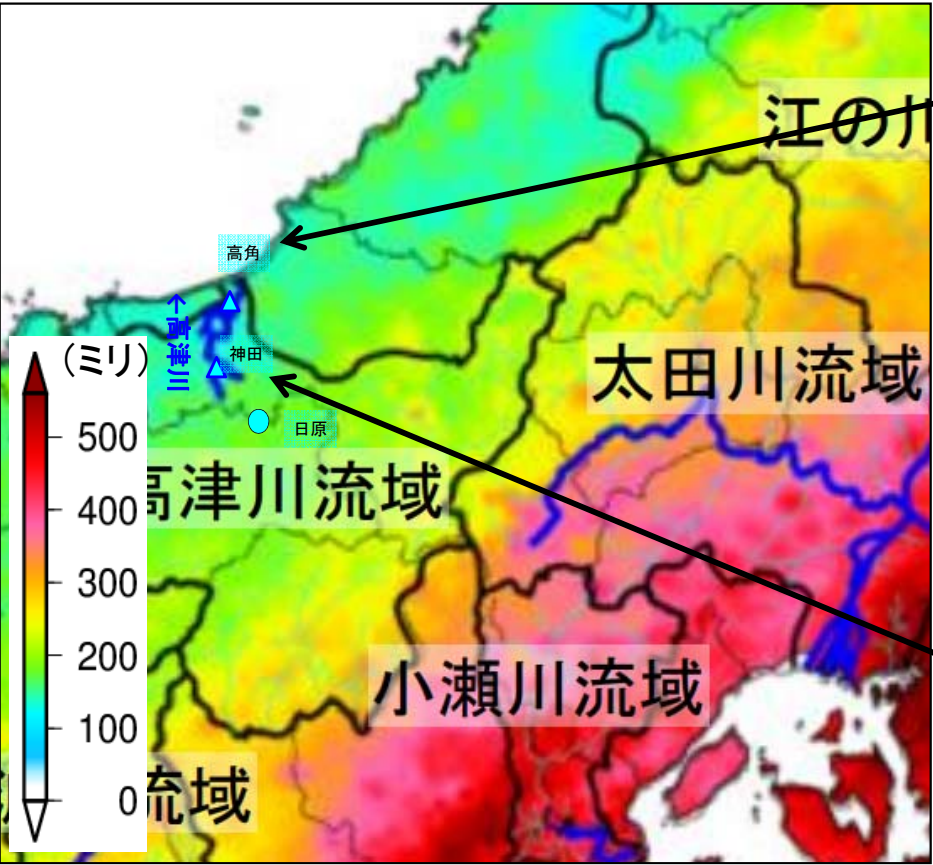
※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

# 高津川流域の水位概況【平成30年7月豪雨】

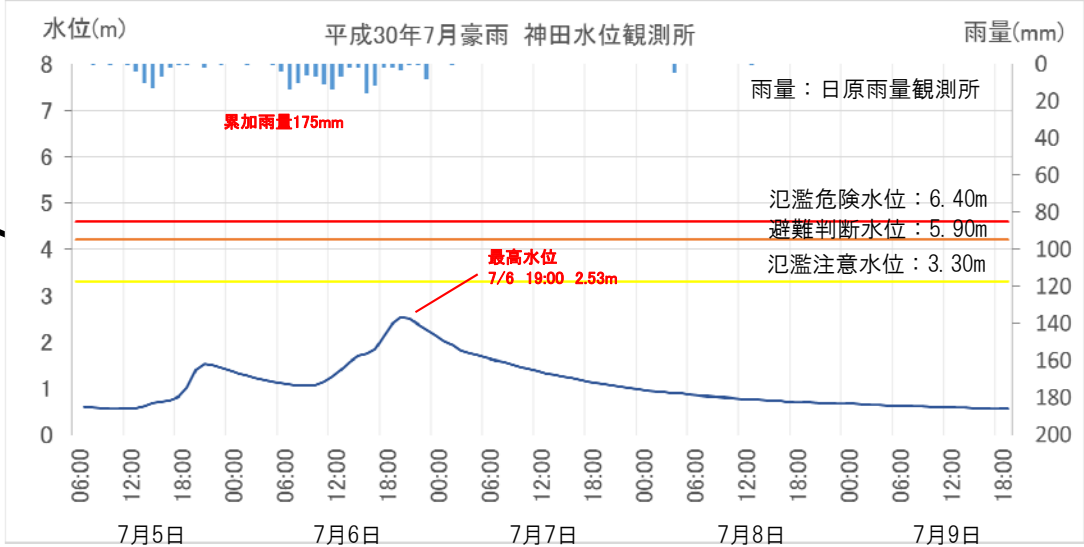
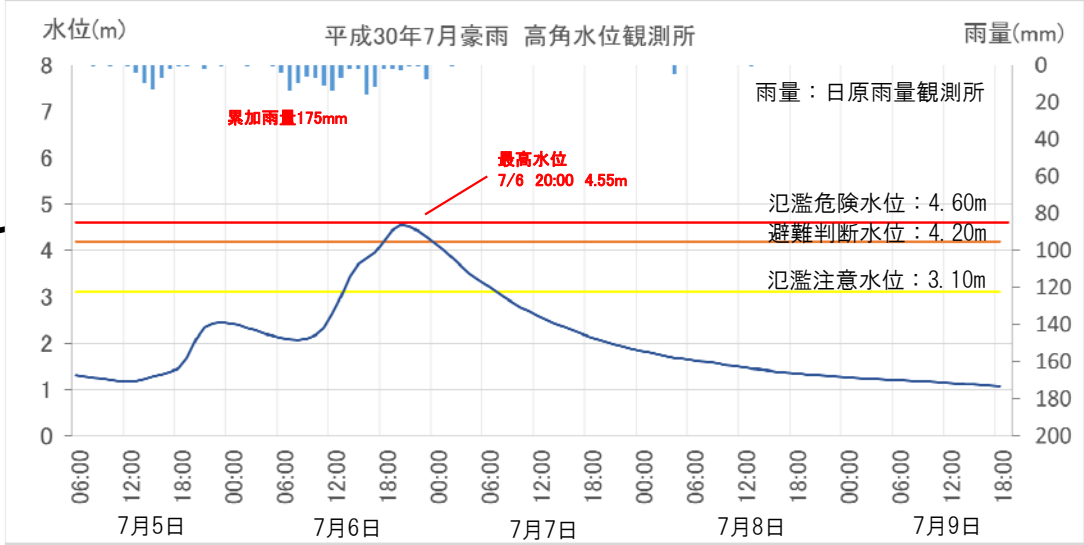
■7月5日(木)から7日(土)にかけて、梅雨前線が本州付近に停滞し、この前線へ向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活発な活動が続いたため、高津川流域でも断続的に非常に激しい雨が降りました。

■この雨により、高津川流域の高角水位観測所において避難判断水位を超過し、あと0.05mで氾濫危険水位に到達する水位であった。

## 雨量分布図



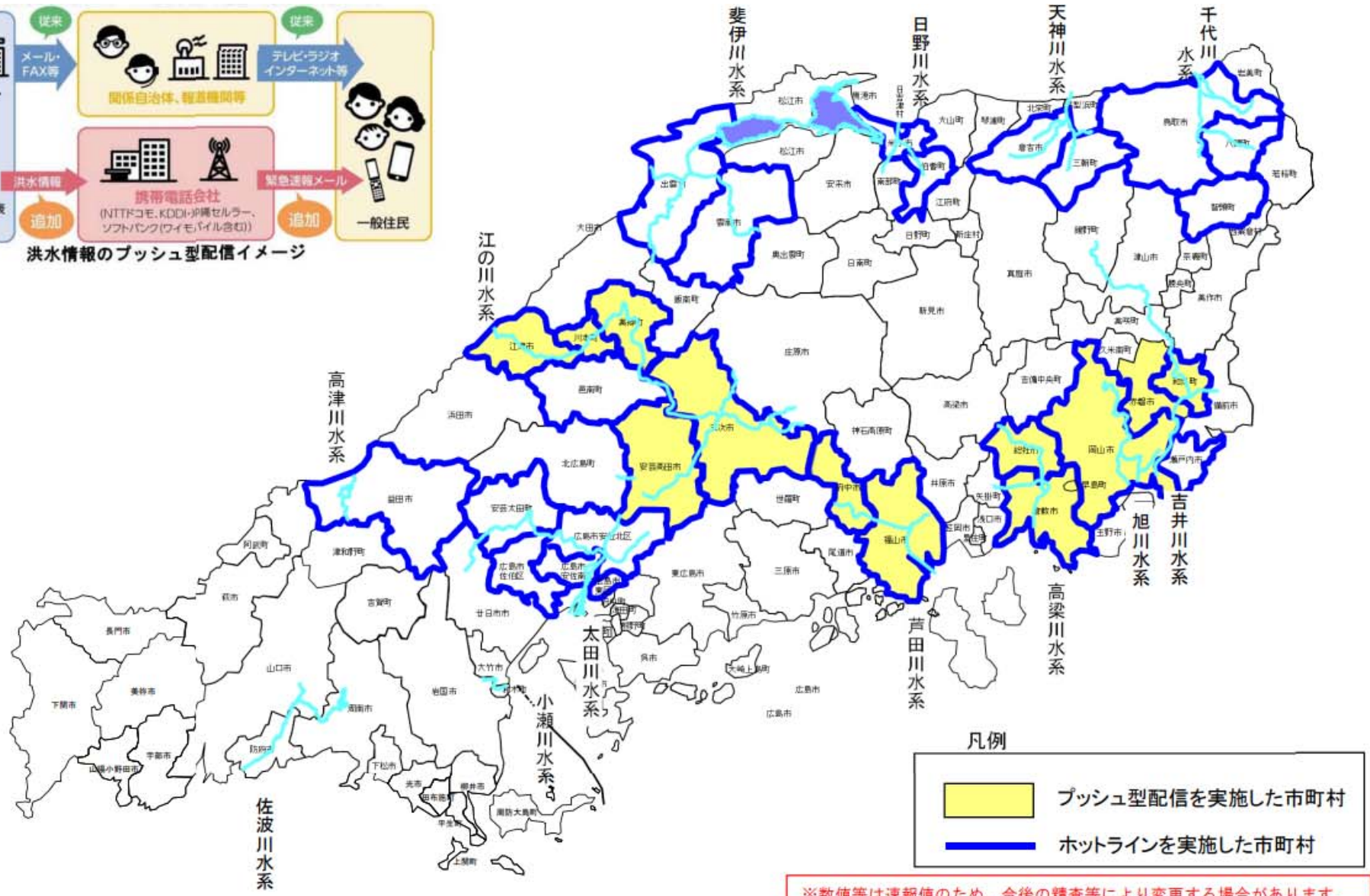
※雨量分布図は広島地方気象台提供 (7/5 0:00~7/9 9:00の降水量)



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

# 避難に係る情報提供(国管理河川)【平成30年7月豪雨】

- 気象庁と協働で発表する洪水予報のほか、避難勧告発令等の支援のため、自治体に河川の状況や今後の見通しを伝える**ホットライン**を実施しました。
- 9市4町の地域住民の皆様にも、延べ20回、**緊急速報メール**（プッシュ型配信）により洪水情報の伝達を実施しました。



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。